

東北地方 1か月予報

(1月13日から2月12日までの天候見通し)

平成19年1月12日
仙台管区気象台発表

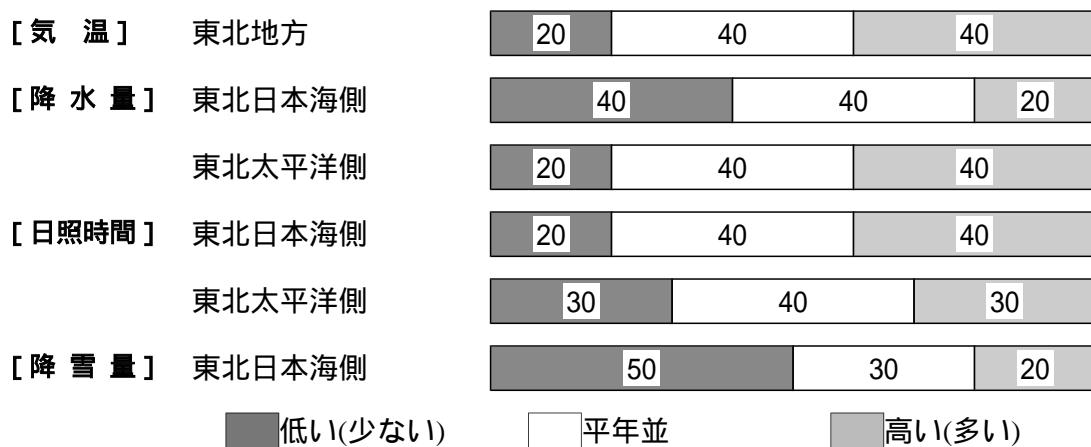
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
冬型の気圧配置となる日は平年よりも少ないでしょう。1週目から2週目にかけて次第に気温が上昇するでしょう。東北日本海側では平年より曇りや雪の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

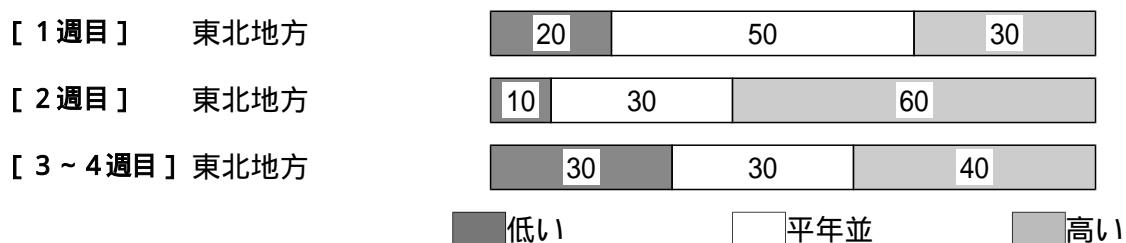
平均気温は、平年並または高い確率とともに40%です。降水量は、東北日本海側では平年並または少ない確率とともに40%、東北太平洋側では平年並または多い確率がともに40%です。日照時間は、東北日本海側では平年並または多い確率が40%です。東北日本海側の降雪量は少ない確率が50%です。

週別の気温は、1週目は平年並の確率が50%です。2週目は高い確率が60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 1月13日(土) ~ 2月12日(月)
1週目 : 1月13日(土) ~ 1月19日(金)
2週目 : 1月20日(土) ~ 1月26日(金)
3~4週目 : 1月27日(土) ~ 2月 9日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は1月19日
3か月予報:1月25日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と1週目、2週目、3～4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	降雪量(cm)	気温()		
					1週目	2週目	3～4週目
青森	-1.7	146.7	63.8	266	-1.4	-1.8	-1.9
深浦	-0.8	87.5	37.0	136	-0.3	-0.9	-0.9
むつ	-2.0	91.8	84.2	188	-1.5	-2.0	-2.2
八戸	-1.5	54.4	139.1	112	-1.1	-1.6	-1.6
秋田	-0.4	105.2	53.4	147	-0.1	-0.5	-0.5
盛岡	-2.3	51.8	133.8	121	-2.1	-2.5	-2.4
大船渡	0.4	49.0	155.1	31	0.7	0.2	0.2
宮古	-0.2	66.1	168.3	59	0.2	-0.3	-0.4
仙台	1.2	37.5	160.8	38	1.5	1.1	1.0
石巻	0.3	37.6	176.3	14	0.5	0.1	0.1
山形	-0.8	75.0	96.5	173	-0.6	-0.9	-0.9
新庄	-1.5	174.2	48.0	295	-1.4	-1.6	-1.6
酒田	1.1	139.4	46.8	151	1.4	1.0	0.9
福島	1.2	45.9	148.7	90	1.4	1.1	1.1
若松	-0.9	76.3	91.6	194	-0.8	-1.0	-1.0
白河	-0.1	30.2	169.1	59	0.1	-0.2	-0.2
小名浜	3.2	51.0	196.2	0	3.5	3.2	3.1

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.8	74～112	95～107	87～107
東北日本海側	-0.4～+0.7	89～104	91～111	91～110
東北太平洋側	-0.5～+0.8	63～112	96～105	80～108

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
東北地方	-0.7～+0.9	-0.6～+0.9	-0.5～+0.7
東北日本海側	-0.7～+0.8	-0.6～+0.9	-0.5～+0.7
東北太平洋側	-0.7～+0.9	-0.6～+1.0	-0.5～+0.8

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成19年1月12日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(1月13日~2月12日):

冬型の気圧配置となる日は平年よりも少ないでしょう。1週目から2週目にかけて次第に気温が上昇するでしょう。東北日本海側では平年より曇りや雪の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並または高い確率とともに40%です。

1週目(1月13日~1月19日):

冬型の気圧配置の日が多く、東北日本海側では雪が降り、東北太平洋側では沿岸部を中心に晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並の確率が50%です。

2週目(1月20日~1月26日):

冬型の気圧配置が緩み、移動性の高気圧に覆われる日もあるでしょう。東北日本海側では平年より曇りや雪の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高い確率が60%です。

3~4週目(1月27日~2月9日):

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

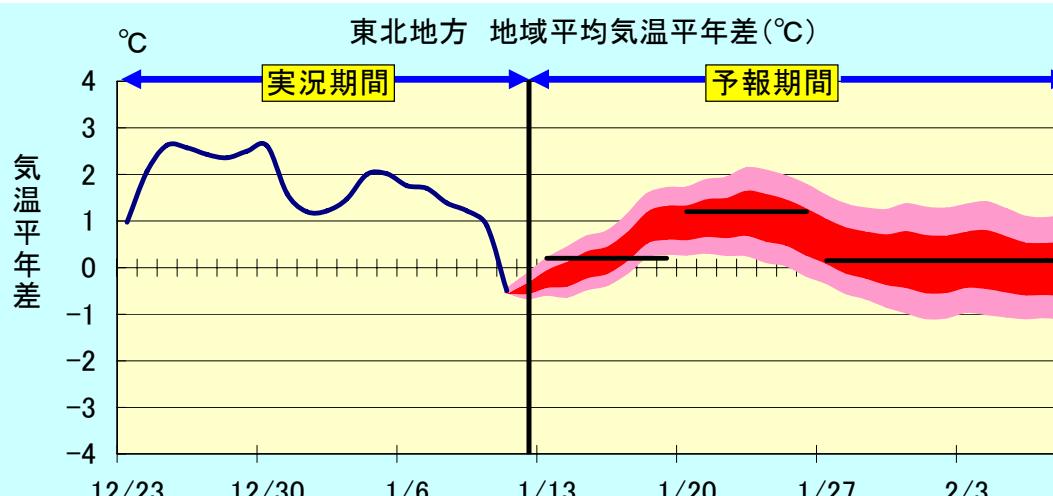
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	5.0日	1.3日	1.1日	2.6日
東北太平洋側	18.5日	4.6日	4.4日	9.5日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1週目は平年並付近、2週目は平年を上回り、3~4週目は平年並付近の予想となっている。なお、数値予報の信頼度は大きい。

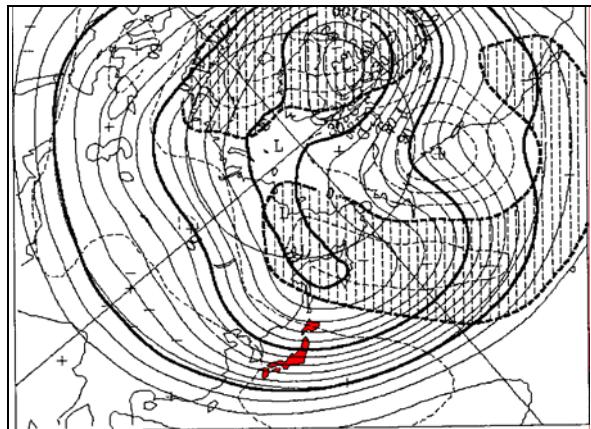


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

1か月平均：日本付近はシベリアから帶状に伸びる正偏差と日本の南東海上を中心とする正偏差に覆われている。一方、カムチャッカ半島付近から太平洋中部にかけては負偏差が分布。このため、持続的な強い寒気の南下はない見込み。

1週目：カムチャッカ半島付近では明瞭な負偏差だが、日本付近は南東海上からバイカル湖方面へ延びる正偏差に覆われている。このため、アリューシャン低気圧は中心付近では強いものの、東北地方への強い寒気の南下はない見込み。また移動性の高気圧に覆われる日もある見込み。

2週目：ユーラシア大陸から太平洋にかけて広く正偏差で北日本は 60m 以上の正偏差に覆われている。このため、東北地方は1週目よりも気温が高くなる可能性が高い。冬型の気圧配置は緩み、移動性の高気圧に覆われる日もある見込み。

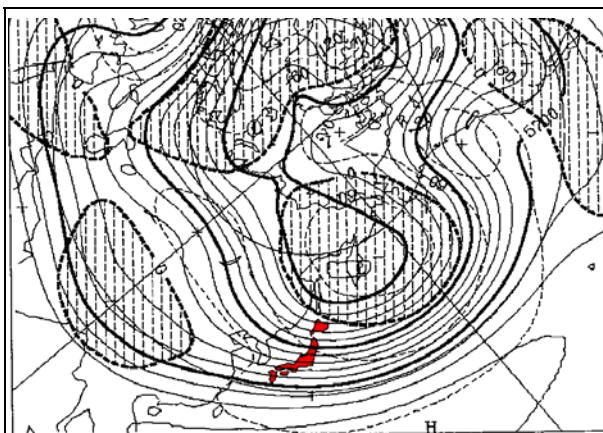


1か月平均 500hPa 予想天気図

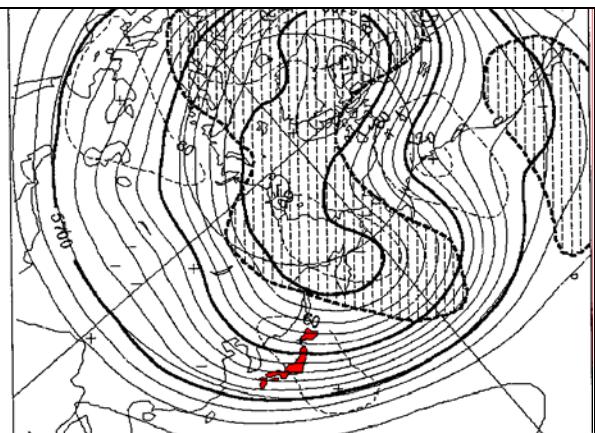
(図の見方は1, 2週目と同じ
ただし平年差の間隔は 30m 毎)

実線は、等高度線 (間隔 60m)、点線は、平年差 (間隔 60m)

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する



1週目平均 500 hPa 予想天気図



2週目平均 500 hPa 予想天気図

実線は、等高度線 (間隔 60m)、点線は、平年差 (間隔 60m)

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する

白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (1月5日～1月11日) の天候の経過

二つ玉低気圧が6日から7日にかけて東北地方に接近し、7日に三陸沖で一つになって急速に発達しながら北上した。このため6日から8日にかけては各地で大荒れの天気となり、東北太平洋側を中心に強風、大雨・強雨、波浪による被害が発生した。6日は大船渡で113.5mm、宮古で117.0mmの日降水量を観測し、1月の極値を更新した。また7日は八戸で34.2m/sの最大瞬間風速を観測し、1月の極値を更新した。その後も冬型の気圧配置が続いた。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方でかなり多い。日照時間は東北地方で平年並。

